

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2026年6月分)

2026年6月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●PIC・SB政務局長級会合の開催(3日～4日)

●BHの金融活動作業部会グレーリスト掲載(19日)

●クリショック上級代表代行の任命(30日)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH連邦ガス法案の策定(15日)

イ スルプスカ共和国(RS)

●ドディックSNSD党首のラヴロフ露外務大臣との会談(5日)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●コスタ欧州理事会議長のBH訪問(1日)

●ハダド仏欧州大臣、クリヒバウム独欧州大臣によるBH訪問(2日)

(2) 二国間関係

●コナコビッチBH外務大臣とダウティー英閣外大臣(欧州担当)との電話会談(1日)

●国境検問所に関するBH・クロアチア政府間協定(8日)

●ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーのイスラエル訪問(21日～22日)

(3) 日・BH関係

●令和7年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「コニツ市診療所 X 線撮影装置整備計画」引渡式の実施(11日)

●第26回国際柔道トーナメント「BiH & NIPPON 2026」(20日)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済協力

●「公正なエネルギー移行のためのEU」プロジェクトの発表(10日)

(3) 民間セクター

●第7回のBHプライドマーチが開催(20日)

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●PIC・SB政務局長級会合の開催(3日～4日)

3日～4日、和平履行評議会運営委員会(PIC・SB)政務局長級会合がボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)議会及び上級代表事務所(OHR)で開催された。会合後、シュミット上級代表は、本会合において後任の上級代表は選出されず、6月30日の職務移行に向け、近日中(in the coming days)にコンセンサスに達することができるよう協議を進める見通しを述べつつ、後任は5+2アジェンダの達成を含む形で Dayton 和平合意の履行の支援を継続する旨を述べるビデオ・メッセージを発出した。

●PIC・SB会合後の当地米大使間による声明(5日)

5日、当地米国大使館は、PIC・SB会合後に声明を発表し、欧州が欧州の候補に関しコンセンサスに至ることができなかったことに留意し、これらの分断がPICにおいて新たな上級代表を選出するという任務の遂行を妨げたことに失望していると表明。BHに対する欧州の優柔不断さ及びPICの職務放棄は、BHでの現在の国際的なプレゼンスにおける米国の役割の再考を余儀なくさせつつある旨を主張した。

●PIC・SB会合後の当地EU5カ国大使館による共同コメント(5日)

5日、PIC・SBのEU加盟国(仏、独、伊、蘭、西)は、記者質問に回答する形で、過去の慣例に倣い、新たな上級代表はEU加盟国出身であるべきと考えている旨を述べつつ、過去二日間に実施された話し合いは、非常に建設的であったと評価した。

●BHのEU加盟に関する世論調査: 2026年

(11日)

11日、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)欧州統合総局(DEI: Directorate for European Integration。閣僚評議会の下に設置され、BHのEU加盟プロセスにおける国内各機関の調整を行う)は、2026年4月から5月にかけて実施したEU加盟に関する世論調査の結果を発表した。EU加盟への支持は上昇し、BH全体でEU加盟を支持する市民が75%に近づいた(前年比+4.5%)。BH連邦で85%超となったにとどまらず、RSにおいても5割を超え、前年比で8.0ポイント大幅に上昇した。EU加盟を支持する割合に差がある点は従来と同様であるが、両エンティティ間の支持率の差はわずかに縮小した。さらに、ブルチュコ特別区のEU加盟の賛成割合が前年比3.4%増加。

●BHの金融活動作業部会グレーリスト掲載(19日)

19日、金融活動作業部会(FATF)は、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)及びイラクを、マネーロンダリング及び金融犯罪に関する更なる監視強化対象国を掲載するグレーリストに追加した。FATFはブラックリスト又はグレーリストに関する決定を実際に行う主体である。マドラゾFATF会長は、BHは、犯罪者及びテロリストによる金融システムの不当な利用への対策強化、銀行部門での有効な監視活動の確保に向けた追加の取り組みが必要とされる状況にあるため、グレーリストに掲載されたと語った。

●クリショック上級代表代行の任命(30日)

30日、PIC・SB大使級会合は、後任の上級代表が任命されるまでの間、クリショック首席副上級代表を上級代表代行に任命することを決定した。同議長声明では、PIC・SBは、シュミット上級代表の辞任に伴い、7月1日よりクリ

ショック氏が上級代表代行に就任し、デイトン和平合意に従い、その職務の範囲内であらゆる措置を講じ、その履行を確保する旨が記載された。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH連邦ガス法案の策定(15日)

15日、BH連邦政府は、BH連邦ガス法案を策定した。この法案は、天然ガス部門を生産、流通から供給、貯蔵、ガスインフラ開発に至るまで包括的に規制する初の法律となる。同議会に提出されるこの法案は、欧州規則との調和、供給の安定性強化、そして競争力のあるガス市場の発展を目指している。

イ スルプスカ共和国(RS)

●ドディックSNSD党首のラヴロフ露外務大臣との会談(5日)

5日、ドディックSNSD党首は、サンクトペテルブルク国際経済フォーラムに参加するため、ロシア・サンクトペテルブルクを訪問した際に、在露スルプスカ共和国(RS)代表事務所においてラヴロフ露外務大臣と会談した。会談後、ドディックSNSD党首は、ラヴロフ露外務大臣がデイトン和平合意に基づく主権と領土の一体性へのコミットを再確認したことは、主権国家が外国人によるものではないことを踏まえると、OHRの職務終了を示唆していると解することができ、これはBH憲法裁判所の外国人裁判官も去らなければならないということでもある(ママ)と語った。

●上級代表事務所(OHR)の決定に関するRS憲法裁判所の法的評価(10日)

10日、RS憲法裁判所は、上級代表事務所(OHR)の決定に関する法的評価を下した文書(Notification)をRS官報に掲載した。同文書は、上級代表による決定行為がBH憲法、

付属書10及びいかなる和平履行評議会(PI C)の宣言にも依拠しておらず、BH議会による採択の義務を経ていないため、二重の意味で違憲である(ママ)と指摘し、OHRは、BHの民主主義、法の支配、憲法、合法性、正当性及び法的秩序を脅かしていると評価した。

●欧州人権裁判所におけるドディック元RS大統領の申立却下(14日)

14日、欧州人権裁判所がドディック元RS大統領の弁護団によるBH裁判所判決に対する申立を却下したことを、当地メディアが確認した。本申し立ては、2025年8月に、BH裁判所が同氏に有罪判決(上級代表決定不履行罪)を下し、BH中央選挙管理委員会(CEC)がRS大統領としての職務を終了させた決定及びBH憲法裁判所における上訴棄却に対するものであった。上記の決定により、ドディック側の弁護士団は、すべての申し立て可能な法的メカニズムを尽くしたため、SNSD党首による法的闘争は完全に終了し、上記のBH裁判所判決は法的な効力を保持し続けることが決定した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●コスタ欧州理事会議長のBH訪問(1日)

1日、コスタ欧州理事会議長は、ベチロビッチBH大統領評議会議長(ボシュニャク)及びツビヤノビッチ同評議会セルビア系メンバーと会談した。会談後の記者会見で、「コ」欧州理事会議長は、EUによる西バルカン諸国へのコミットメントは現実的であり、モンテネグロの加盟条約の草案作成が開始したことはその証左となるとした上で、2つの司法制度改革及び首席交渉官の任命を求めた。一方で、BHに

対し、西バルカン成長計画の改革アジェンダによる支援の機会を逃してはならないと警告。近日中に開催予定のPIC・SB会合に触れ、新しい上級代表が、BHの選択を体現し、EU加盟を目指すことが重要であると指摘した。

●ハダド仏欧州大臣、クリヒバウム独欧州大臣によるBH訪問(2日)

2日、ハダド仏欧州大臣、クリヒバウム独欧州大臣は、BHを訪問し、BH大統領評議会メンバー、クリシュトBH閣僚評議会議長及びコナコビッチBH外務大臣と会談した。会談後、クリシュト議長は、3つのすべての構成民族の代表者による政治的責任の重要性について強調し、対話と妥協を通じて前進できると説明した。また、OHRに関し、同議長は持続可能な解決は、国内的な合意からのみ生まれると評価し、国際的なアクターの介入は、国内の政治主体が妥協を避ける余地を残すと述べた。

●欧州議会による2025年年次報告書に関する決議の採択(17日)

17日、欧州議会は、BHに関する年次報告書(欧州委員会作成)に関する決議を採択した(賛成478票、反対116票、棄権54票)。なお、アルバニア、コソボ、北マケドニア及びモンテネグロに関する年次報告書も同時に採択された。同報告書は、OHRの将来的な移行はBHの憲法秩序、主権及び領土一体性への完全な遵守に基づくべきとした上で、EUはOHRに対し財政上大きく貢献していることを踏まえ、将来のいかなる上級代表もEU加盟国から選出されるべきであり、OHRの段階的な閉鎖及びEU特別代表への職責移行に向けた明確なロードマップに基づき運営すべきであるととした。

(2)二国間関係

●コナコビッチBH外務大臣とダウティー英閣

外大臣(欧州担当)との電話会談(1日)

1日、コナコビッチBH外務大臣は、ダウティー英閣外大臣(欧州・北米・海外領域担当)と電話会談を実施した。同会談は、6月3日から4日のPIC政務局長級会合に先駆けて設けられ、両者は、昨今のBH情勢及び平和、安定及び憲法秩序を維持するためのOHRの代替不可能な役割に関し、議論した。「コ」BH外務大臣は、国家機関の機能性の保護、デイトン和平合意の維持、BHの主権及び民主的統治を守るためにOHRの果たしてきた役割を強調しつつ、OHRのすべての権能及び職務を維持することの重要性を指摘した。「ダ」英閣外大臣は、BHの主権、領土一体性及び憲法秩序に関する揺らぐことのない支持を繰り返し強調しつつ、英国はOHRがすべての職務と権限(the full mandate and powers)を維持することを強く支持している旨を再度強調した。

●国境検問所に関するBH・クロアチア政府間協定(8日)

8日、クリシュトBH閣僚評議会議長は、サラエボでブレンコビッチ・クロアチア首相と共に、国境検問所に関する政府間協定に署名し、両国間でのヒト・モノの移動を円滑化し、両国の関係を強化していく旨を確認した。同協定では、貨物用の国境検問所が、ビヤチャ、グラディシュカに加え、新たにスピライ、イザチッチ、カメンスコの3カ所が追加され、国境沿いの住民に配慮した小規模な国境の設置も合意された。

●ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーのイスラエル訪問(21日～22日)

21日から22日にかけて、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーはイスラエルを訪問し、ヘルツォグ・イスラエル大統領、ネタニヤフ・イスラエル首相、オハン・クネセト議長等と会談した。ヘルツォグ大統領との会

談後、ツビヤノビッチ同評議会メンバーは、同会談は大変喜ばしいものであったと振り返りつつ、友好関係、パートナーシップ、相互理解の深さを確認すると共に、イスラエルとRSとの関係をさらに発展させていく決意を表明した。 Netanyahu 首相との会談後には、同メンバーは、Netanyahu 首相が長年にわたりRSが代表する立場に示してきた理解と良好な関係に感謝の意を表したと語った。

●コナコビッチBH外務大臣とタヤーニ伊外務大臣との会談(27日)

27日、コナコビッチBH外務大臣は、第19回ドゥブロブニク・フォーラムに参加するためクロアチアを訪問した際に、タヤーニ伊外務大臣と会談した。同会談では、BHの政治情勢と後任の上級代表の選出に関する活発な議論が進行する中、BHの安定維持、国際社会の役割、欧州統合に向けた将来像について意見交換を行った。コナコビッチBH外務大臣は、上級代表事務所(OHR)は同合意の履行、国家機関の保護及び憲法秩序の維持における取って代わられることのない保証人であり、ボン・パワーと完全なマンデートの維持は疑問に付されるべきではなく、ボン・パワーの行使は控えるべきという意図は理解しつつも、BHの国家機関、憲法秩序及び安定を損なう試みを抑止する予防メカニズムであり続けると語った。一方、タヤーニ伊外務大臣は、BHの主権、領土一体性、憲法秩序及び欧州統合への強固な支持を再確認しつつ、法の支配、国家機関の機能確保、政治的安定のために、設定された条件の履行までOHRを維持することを含む国際社会の継続的かつ強力な関与の重要性を強調した。

(3) 日・BH関係

●令和7年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「コニッツ市診療所 X 線撮影装置整備計画」引渡式の実施(11日)

11日、相木大使は、ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦コニッツ市(サラエボから南西に約55キロ)を訪問し、チャティッチ・コニッツ同市長、グレダ・コニッツ同市会議長、ハイドゥク・同市診療所所長等と共に、令和7年度草の根・人間の安全保障無償資金協力事業「コニッツ市診療所 X 線撮影装置整備計画」の引渡式に出席した。引渡式にて、相木大使は、X 線撮影装置の供与により、同装置による診察を必要とする年間 7,000 人以上の患者に対し、より迅速な診察、及び正確な診断が可能となることを大変嬉しく思うと述べた。チャティッチ・コニッツ市長は、今回の日本政府からの寛大な支援に感謝するとともに、日本とのさらなる関係の発展を願うと述べた。日本政府は、同診療所に対し、X 線撮影装置の支援のために100,929ユーロを供与した。本計画により、年間約7,000人以上の患者に対し、より迅速で正確な処置を実施することが可能となる。



(写真: 引渡しの様子)

●第26回国際柔道トーナメント「BiH & NIPPON 2026」(20日)

20日、在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館は、ボスニア・ヘルツェゴビナ柔道連盟との共催により、第26回国際柔道トーナメント「BiH & NIPPON 2026」をサラエボ郊外で開催した。相木大使は挨拶の中で、本年が日本とボスニア・ヘルツェゴビナの外交関係樹立30周年という記念すべき節目の年であることに触れ、柔道をはじめとするスポーツ交流が両国の友好関係の促進に重要な役割を果たしてきたと述べるとともに、今後も両国の友情と協力関係がさらに発展していくことへの期待を表明した。本大会にはバルカン地域4ヶ国の50の柔道クラブから6歳から22歳までの約400名の選手が参加し、熱戦が繰り広げられた。表彰式では、相木大使ほかの関係者から、入賞者に対し賞状及びメダルが授与された。



(写真: 競技の様子)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●工業生産指数

2026年6月の工業生産指数は、季節調整後数値で前月比2.3%プラス。前年同月比8.4%プラス。

●雇用／失業率

2026年5月の失業者登録数は30万5335人(うち女性18万2213人)で、前月比で1.4%マイナス、前年同月比で3.2%マイナス。

●平均給与

2026年5月の平均給与(手取り)は1,691 KMで、前月比で名目賃金は0.4%プラス、実質賃金は1.3%プラス。前年同月比で名目賃金は7.4%プラス、実質賃金は1.7%プラス。

●消費者物価指数

2026年6月の消費者物価指数は前月比1.1%マイナス。前年同月比で平均4.2%プラス。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比1.2%のマイナス。

●貿易収支

2026年6月のBHからの輸出総額は88.37億KM(前年同期比4.8%増)、BHへの輸入総額は155.78億KM(前年同期比6.1%増)。貿易収支は67.41億KMの赤字。

(2) 経済協力

●「公正なエネルギー移行のためのEU」プロジェクトの発表(10日)

10日、当地EU代表部は、「公正なエネルギー移行のためのEU」プロジェクトを発表した。同プロジェクトは、石炭への依存からの脱却、持続可能なエネルギー源への移行を目的として、500万ユーロの資金提供を行い、新たなエネルギー部門での投資誘致及び新規雇用の創出を目指す。

(3) 民間セクター

●第7回目のBHプライドマーチが開催(20日)

20日、第7回のBHプライドマーチ(性的少数者の権利向上を訴える集会)が開催された。今年は「どんな色も私たちに似合う」というスローガンの下、計500名以上が参加し、ソレカ当地EU代表、我々の党(NS)所属のチューデ

イツチ同党首、フォルトBH運輸・通信大臣及びユリシツチBH人権難民副大臣等が参加した。BHプライドマーチは、BHにおける同性婚、性自認に関する法整備、ヘイトクライム及びヘイトスピーチの刑罰化、寛容、包摂及び多様性の受容に基づく教育制度の構築等を要求した。

●BHサッカー代表、初のW杯決勝トーナメント進出(24～25日)

24日、BHサッカーW杯代表は、W杯本戦でカタールを3対1で下し、グループステージを1勝1分1敗で通過し、初めての決勝トーナメント出場を果たした。サラエボ、モスタル、トゥズラ及びブルチュコでも市民が集結し、同代表の歴史的快挙を祝福した。